

野崎 孝（のざき・たかし）

1、プロフィール

翻訳家。弘中を4年首席で通し、語学の天才の異名をとる。大学教授を務めながら翻訳を手がけ『ライ麦畑でつかまえて』『エデンの東』などの数々のベストセラーを生んだ。

<生没>

1917(大正6)年 11月8日 ~ 1995(平成7)年5月12日

<代表作>

翻訳『ライ麦畑でつかまえて』『もう一つの国』『エデンの東』

<青森との関わり>

弘前市生まれ。弘中、弘高、東京帝大文学部に進み、戦後も一時弘高教授、弘前大学の助教授をつとめた。

2、作家解説

翻訳家。元帝京大学英文学教授。英米文学の翻訳で数々のベストセラーを生んだ。

大正6年 11月8日、父定七、母みどりの長男として弘前に生まれる。生家はカネ九という屋号をもつパン屋で、舶来の缶詰・固形スープ・ソーセージなども売っていたという。昭和4年に県立弘前中学校に進み、以後4年間首席で通す。”語学の天才”の異名をとる。4年修了で官立弘前高校へ進む。昭和12年東京帝国大文学部イギリス人文学科に入学し、中野好夫に師事する。卒業後は東京で商業学校の教師となる。

戦後中国から復員し、弘前高校教授となり、24年から25年までは弘前大学の助教授をつとめるが、その後中央大学・都立大学の教授を歴任、帝京大学英文学教授となる。昭和28年頃から本格的に翻訳活動を開始し、昭和39年12月、J・D・サリンジャーの『ライ麦畑でつかまえて』で空前の大ヒットを飛ばす。成績不良

で退学になった高校生の言動を通して人間社会のいやらしさをとらえたこの作品は、ティーン・エイジャーの心理を的確に写し取っていることとそのさわやかな文体で多くの読者を獲得し、女学生がアクセサリーとして持ち歩くほどであった。また、昭和 47 年1月には、映画の封切りに合わせてジョン・スタインベックの『エデンの東』を出版すると、これがまた大ヒットし、本が飛ぶように売れた。

その他、J・ホールドウインの『もう一つの国』(昭和 40 年)フィッツジェラルドの『偉大なるギャツビー』(昭和 41 年)ジョン・スタインベックの『怒りの葡萄』(昭和 50 年)アーネスト・ヘミングウェイ『老人と海』(昭和 54 年)ジョン・バースの『酔いどれ草の仲買人』(昭和 54 年)など、沢山の名訳を世に出した。平成7年5月 12 日、肝不全のため東京虎ノ門病院でなくなった。告別式は故人の意志で行わなかった。

3、資料紹介

○『ライ麦畑でつかまえて』

図書

1964(昭和 39)年 12 月 20 日

J・D・サリンジャーの 1951 年の作品で、成績不良で退学になった高校生の言動を通して、人間社会のいやらしさを描いたもの。ハイティーンの用語を的確に写した点で若者の人気を呼ぶとともにティーン・エイジャーの心理の研究資料としても利用された。